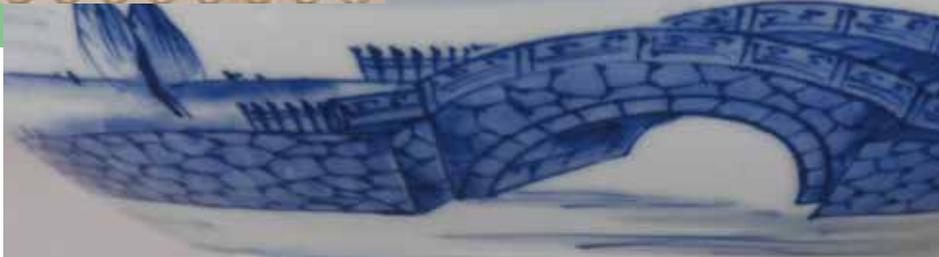


特別展

紀州の美を統べし殿様

徳川治宝



2025 10/25 土 ~ 12/7 日

前期 10/25 土 ~ 11/16 日

後期 11/18 火 ~ 12/7 日

※一部資料の展示替えを行います。

入館料 一般：500円 高校生以下：無料

※20名以上の団体は2割引。
※和歌山市が発行する老人優待利用券をお持ちの方は、本人のみ無料。
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介護人は無料。

◎11月15日(土)・16日(日)は関西文化の日、
11月22日(土)はふるさと誕生日にちなみ入館無料
休館日 月曜日(ただし11月3日、11月24日は開館)、
11月4日(火)、11月25日(火)

開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)



関連イベント 会場：和歌山市立博物館2階 講義室【定員80名】※展示解説をのぞく

講座	各回とも14:00~15:30
10月25日(土)	「住吉派の絵画学習一名所絵と物語絵」 和泉市久保惣記念美術館学芸員 後藤健一郎 氏
11月29日(土)	「徳川治宝による下賜と社寺への寄進」 当館学芸員 新井美那

講演会・研究報告 (和歌山地方史研究会第157回例会)
「徳川治宝をめぐる教養と紀州の文化」 11月8日(土) 13:30~16:30
13:30~14:50 報告①「徳川治宝が登用した画家たち」当館学芸員 新井美那
報告②「紀州藩領内外にのこる徳川治宝の扁額」 和歌山城整備企画課学芸員 伊津見孝明
15:00~16:30 基調講演「徳川治宝の文事一絵巻模写と有職故実一」 鹿児島大学准教授 亀井森 氏
共催：和歌山地方史研究会

展示解説	特別展示室にて各回とも14:00から1時間程度
	11月3日(月・祝)、11月23日(日)、12月6日(土)

※いずれも申し込み不要。

和歌山市立博物館

特別展

紀州の美を統べし殿様

とく がわ はる とみ

徳川治宝

紀州藩一〇代藩主・徳川治宝（一七

七一〜一八五二）は、学問や芸術に造詣が深く、学者や知識人、職人を登用し、積極的に振興を図りました。そのため、治宝の依頼を受けてつくられた絵画や工芸品など、様々な資料が伝わっています。また治宝は社寺への寄進を行い、有職故実を学び、絵巻の模写をさせるなど、先人から受け継がれた文物に敬意を払い、保護や継承にも取り組みました。

この特別展では、治宝から下賜された品や、社寺へ寄進したものをはじめ、彼や周辺の人々のためにつくられた作品や、御用を手がけた絵師の絵画などを中心に展示し、治宝を通して展開された一八世紀末から一九世紀前半の紀州の豊かな文化を紹介します。

寺外初公開!!

治宝たちが寄進した仏像がならぶ



釈迦如来坐像 覺應寺蔵

治宝が写させた絵巻

原本の紀州東照宮所蔵本とならべて見せます



東照宮縁起絵巻 第5巻 住吉広定筆 大阪城天守閣蔵

治宝は工芸品も熱心につくらせた



偕楽園塗 彫彩漆屈輪文合子 個人蔵

治宝からの贈りものいろいろ



和歌浦尽硯箱 館蔵



木笏・牙笏 養翠園蔵

治宝こだわりの笏

治宝や姫のために描かれた絵



清姫鐘巻伝記 下巻 塩路鶴堂筆 道成寺蔵

開館40周年記念講座 歴代館長のとっておきの話

11月1日（土） 13:00~16:00

会場：和歌山市立博物館 2階 講義室

登壇者 和歌山信愛短期大学非常勤講師 寺西貞弘 氏
関西大学非常勤講師 額田雅裕 氏
学習院大学教授 近藤 壮 氏
司会 当館館長 前田敬彦



和歌山市駅から徒歩5分

和歌山市立博物館

〒640-8222

和歌山市湊本町3丁目2番地

TEL：073(423)0003

FAX：073(432)9040

<http://www.wakayama-city-museum.jp>

表面画像：圓珠院旧蔵堂内荘殿具のうち柱掛 和歌山県立博物館蔵、書「守学」徳川治宝筆 個人蔵、南紀男山焼 染付不老橋絵鉢 光川亭洗馬作 館蔵、東照宮縁起絵巻 第4・5巻 住吉広尚・広定筆 大阪城天守閣蔵

周辺施設の展覧会情報

特別展 紀伊徳川家の威風

2025年10月11日（土）～11月24日（月・祝）

和歌山県立博物館 TEL：073(436)8670

開館10周年記念企画展示

わかやま歴史館10年のあゆみ

2025年9月9日（火）～11月4日（火）

わかやま歴史館 TEL：073(435)1044

秋のコーナー展示 国名勝指定40周年記念

和歌山城西之丸庭園（紅葉溪庭園）

2025年11月8日（土）～12月21日（日）

和歌山城天守閣 TEL：073(422)8979

特別展

生誕120年 村井正誠展 色のやどり・形のうぶすな

2025年9月27日（土）～11月30日（日）

和歌山県立近代美術館 TEL：073(436)8690

和歌山市立博物館
令和7年度特別展「紀州の美を統べし殿様—徳川治宝—」
みどころ紹介

その1 治宝が手がけた絵や書を展示します



書「守学」 徳川治宝筆 個人蔵

治宝は若い頃から絵を描くことを好みました。また、力強く大きな文字を書くのが得意でした。書「守学」は、治宝の別邸・西浜御殿にしはまごてんにある西御文庫の額を仕立てるために書かれたものです。金糸を用いた掛軸かけじくの裂きれには葵紋あおいもんがならび、目を惹きます。掛軸に仕立てる際、表千家10代・吸江斎が関わったことを附属する書状から知れます。

その2 治宝が画家に描かせた絵巻の模写もしやを展示します

朝廷や武家の儀式等における古くからの作法などを研究する有職故実ゆうしやくこじつに治宝は関心をもち、参考資料とするために様々な絵巻の模写をつくらせました。

大坂城天守閣が所蔵する東照宮縁起絵巻は、紀州東照宮にある絵巻を模写したものです。絵だけでなく、絵巻の外側の裂や金具、水晶の軸までそっくり似せています。原本の紀州東照宮のものと並べて展示します。



東照宮縁起絵巻5巻 住吉広定筆 大阪城天守閣蔵



釈迦如来坐像 覺應寺蔵

その3 県内のお寺や神社に寄進された品々きしんを展示します

治宝は自身が書いた額の文字のほか様々なものを社寺に寄進しています。和歌山市・田尻にある覺應寺には、治宝により釈迦如来坐像が、2人の側室により阿難立像が、2人の姫（娘）により迦葉立像が寄進されたほか、十六羅漢のうち2 軀が和歌山城の女中たちにより寄進されたとわかります。多人数での寄進によりもたらされた資料が、まとまったのこる貴重な例として注目されます。この度、初めて寺外で公開します。